

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス コモンチャイルドケア		
○保護者評価実施期間	R7年1月20日		～ R7年2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	R7年1月20日		～ R7年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R7年2月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団で療育を行うことで、コミュニケーション能力の向上を図っている。体操、英語、パソコンなどのプログラムやSST・ビジョントレーニングなど様々な経験をすることができるようにプログラムを設定している。	小学校より少ない集団での活動により、コミュニケーションがより密になるようにプログラムを設定している。 また、集団での活動が難しい利用者に対してはレベルに合わせたプログラム難易度を設定し、対応している。	プログラムのマンネリ化を避けるため、利用者のやってみた活動を取り入れるプログラムを設定し、利用者がより活動に積極的になることができるようにする。
2	来所してから宿題する時間を取っている。宿題や課題をする時間を積極的にとりルーティン化している。また、小学校教諭免許を保有している職員も在籍しているため、より細かい学習支援を行うことができる。	利用者が集中して宿題や課題に取り組むことができるような環境を作っている。職員は利用者の必要性に応じてサポートに入っている。	宿題や課題に集中して取り組むことが難しい利用者に対して、職員の声掛けや耳あてなどを準備しサポートしていく。
3	保護者へのアセスメントと利用者のモニタリングにより、詳細な個別支援計画を作成している。	職員間で利用者の情報共有を積極的に行い個別支援計画を作成し、支援方法の統一をしている。	保護者の仕事の忙しさなどにより、支援計画の説明が簡潔になっていることもあるため、時間を作り丁寧な説明を行う。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者参加型のプログラムの参加ができない家庭がある。	保護者参加のできるプログラムを設定しているが、保護者の仕事等と重なることが多く参加が難しい保護者がいる。	開催日時の工夫をし、より多くの保護者に参加してもらうことができるようにする。また、参加が難しい家庭には、SNSやブログを通して利用者の様子を確認できるようにする。
2	ペアレントトレーニングなど保護者参加ができる研修の開催ができていない。	ペアレントトレーニングの開催がある場合に保護者への周知ができていない。	ペアレントトレーニングの案内を送迎時に渡し、情報発信をする。
3	放課後児童クラブや児童館との交流、地域の子供たちとの交流ができていない。	放課後児童クラブや児童館との交流、地域の子供たちと交流できる機会がない。	プログラムで、地域の公園に出向くことが多いため、利用者と地域の子供たちと交流ができるように職員が間に入りサポートしていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービス コモンチャイルドケア

公表日 年月日

利用児童数

34名 R7年2月1日

回収数 15

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12	1		2	入所前の見学時に見た以来、建物に入っていないため現在の様子はわかりませんが、SNSやブログで様子を見ています。	保護者参加型のプログラムを設定し、活動の内容を直接見ることが出来るようにする。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	12	1		2		
	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14			1		
	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14			1	明るくきれいなお部屋だと思います。	
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15				スモールステップで成功体験をさせていただいております。	個々のレベルに合わせた内容の支援を行っていく。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14	1				
	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15					
	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15					
	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14	1				
	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14	1			季節の行事や外出も取り入れられており、楽しそうなプログラムだと思います。	季節感を感じることができるようなイベントやプログラムを定期的に開催する。
	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	4	2		9		
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14			1	いつも丁寧に説明して下さります。	
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8	3		4		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状態について共通理解ができていると思いますか。	15				送迎時にスタッフさんから詳しくお話を聞いております。留守の時にはメールで連絡をくださり、助かっています。	送迎時に伝えることが出来ない場合は、引き続き、メールを用いて療育の様子を伝達する。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14	1				
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	6	1		8		
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14				送迎の際やメールで、いつも丁寧に対応していただいております。		

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	11	1		3	ブログにあげてくださる活動内容を見るのを子どもも親も楽しみにしております。	個人情報の取扱いに引き続き留意し、活動内容を発信していく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8			7		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	1		8		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12			3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	13			2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	15				職員の方と少しずつ雑談ができるようになり、心を開いているのを感じます。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	15				安心できる職員の方が多く、4月からお名前をたくさん話してくれました。通所が楽しいし、安心して行けると本人も伝えてくれています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	15				親も子ども力をお借りして助けられています。いつもありがとうございます。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス コモンチャイルドケア				公表日	年	月	日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		十分なスペースを確保している。クールダウン部屋も設置済みである。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	3	部屋に必ず一人は職員が配置できるようにしている。その場を離れる際は声掛けをしっかりとっている。	共生型放課後等デイサービスのため利用児童が多く職員配置数が不足している事もある。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	2	子どもの目線に合わせた環境構成を考えている。	入口に階段があり、手をつないで上り下りが必要。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		毎日清掃を行って清潔に保たれている。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		クールダウン部屋を用意し、気持ち落ち着かない児童の対応も行っている。				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		職員間で話し合いをし、同じ方向を向いて支援ができるよう努めている。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		評価表を実施し保護者からの意見を積極的に伺っている。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		毎日話し合いをし、その都度対策を考えている。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8	現在第三者の評価は行っていない。	次年度から検討していく。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		外部講師を招いて発達障害の研修を行っている。また、療育センターでの発達障害の研修にも積極的に参加している。				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		製作中。完成次第公開予定。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		アセスメントシートで利用予定児童や既存の利用児童の状況を確認している。変更を個別支援計画書に反映している。				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		現場の職員と実際に必要な情報共有を行っている。				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		個別支援計画書を半年ごとに立て、その児童の最新の状況で計画、支援をしている。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	3	標準化ツールはしていない。積極的に日々の行動観察を行っている。	標準化ツールを使用してアセスメントが行えるようにする。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		各支援項目を個別支援計画書に記載し、支援内容を設定している。				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		職員間で積極的に話し合いをし、プログラムの内容を詳細に考えて実行している。				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	5	全ての利用児童が経験できるように一週間、同じプログラムをしている。その中でも応用していくなど工夫している。				

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		プログラムは基本は集団で活動を行っている。その中で、参加が難しい児童に個別で活動に参加できるようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		勤務開始時に話し合いを行いその日の支援内容を確認している。また、状況に応じ役割を交代する等臨機応変に対応している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		送迎終了後にその日の反省や児童の様子を共有し次回の支援に活かしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		日々その児童の様子を記録している。また、送迎後や翌日の話し合いで再度振り返りを行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		半年ごとにモニタリングをし、目標が達成できた場合は新しい目標を設定している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	8		社会性を身につけるよう、外出やプログラムを立案している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		児童に興味や関心のある事を積極的に伺って意見を反映したプログラムも企画している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		事前に職員全員で最近の様子を振りかえり会議で話せるようにしてから参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		病院と連携をしている。また、小学校や中学校と電話をし学校での様子を伺っている。こちらでの様子もお伝えしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		小学校や中学校と電話をし学校での様子を伺っている。送迎に遅れがある際は電話をしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8		児童発達支援事業所と様子の情報共有で連携をとっている。新年度の利用希望がある際は実際に放デイで過ごす時間もある。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		現在のところ行っていない。	実際に機会があれば行なう予定。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	5	児童発達支援センターで何度か担当者会議を行った。意見や状況の伝達などをした。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8		現在のところ行っていない。	実際に機会があれば行なう予定。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8		現在のところ行っていない。	実際に機会があれば行なう予定。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		送迎の際に保護者に本日の様子を細かくお伝えしている。また、ご自宅の様子もわかっている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		現在のところ行っていない。	実際に機会があれば行なう予定。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時に丁寧に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		契約時に本人と家族の意向を伺って変更の際にも確認をしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		契約時に丁寧に説明を行って、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		送迎の際に保護者にご自宅の様子をわかっている。しっかり話に傾聴する事を心掛けている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		8	現在のところ行っていない。	実際に機会があれば行なう予定。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		8	苦情相談受付窓口を設置している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。		8	現在、ブログやSNSを通して活動の内容や取り組みの様子を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		8		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		8		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		8	現在のところ行っていない。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		8		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		8		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。		8	利用前にアセスメントシートを必ず記入している。また、保護者にも必ず確認をして記録整備保存している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		8	食物アレルギーについて、アセスメントシートを用いて保護者に必ず確認を取っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		8		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		8		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		8	ヒヤリハットの報告書の作成をして、職員間で再発防止に向けて共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		8	虐待防止委員会と責任者を設置している。また、定期的に研修を開催している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		8	他の利用者の安全が確保されない場合や本人の安全が確保されない場合は、本人と保護者の許可を得ている。		